

刈谷商工会議所創立65周年記念

平成30年1月1日発行(毎月1日発行)第787号

新春経済講演会・賀詞交歓会開催

【第1部】新春経済講演会

- 講 師 中京大学 経済学部 客員教授 エコノミスト
うち だ とし ひろ
内 田 俊 宏 氏
- 演 題 『2018年の日本経済と
リニア時代のまちづくり』
- 日 時 平成30年1月19日(金)
【開場】午後1時30分より 【講演】午後2時～3時30分
- 場 所 刈谷市産業振興センター7階小ホール
- 申込受付 ご聴講希望の方は別紙の折込みチラシにてお申込み下さい。
- 定 員 300名(定員になり次第メ切ります。)聴講無料
- 問い合わせ 担当 加藤・市古まで 電話 21-0370
- 主 催 刈谷商工会議所・公益社団法人刈谷法人会刈谷支部・刈谷青色申告会
- 後 援 刈谷市



【第2部】賀詞交歓会

新春経済講演会終了後に賀詞交歓会を開催致します。この賀詞交歓会には、当所議員・会員はもとより、刈谷市長・地元選出の国会議員・県議会議員をはじめ、市議会議員、国の出先機関、県・市の関係者等の皆様方にご臨席を賜わり、地域経済界の一層の交流と新年のご懇談をいただくため、開催致します。

- 日 時 平成30年1月19日(金) 3時30分(講演会終了後)～5時30分
- 場 所 刈谷市産業振興センター4階401会議室
- 参加費 お一人様 3,000円(当日受付にて承ります)

※軽食並びにお酒を用意致しておりますので、お車でのご参加はご遠慮下さい。



年頭のご挨拶

刈谷商工会議所
会頭 太田宗一郎

新年、あけましておめでとうございます。
平成30年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。

旧年中は、当商工会議所の事業活動に対しまして、多大なご支援とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

さて、最近の我が国は、雇用所得環境の改善や米国、中国をはじめとする海外の経済情勢が堅調に推移していることを背景に、企業収益の改善や個人消費も持ち直しており、総じて緩やかな景気回復基調にあるものの、深刻な人手不足、省力化に向けたIT関連への設備投資、経営者の高齢化に伴う事業承継問題など、企業を取り巻く環境は、依然として不透明だと思われ

ます。
このような状況の中で、当商工会議所としましては、企業の経営環境の変化や地域情勢を見据えながら、実効ある事業を着実に推進していきたいと考えております。

具体的には、個々の企業が現場で抱える経営課題の解決に向けて、直接専門家を派遣する「刈谷モノづくり大学」、市民を対象に、商人（あきんど）を講師に招き、個店のスキルアップや集客力向上を目的とした「かりや商人大学」など、これまで、企業の体質強化や生産効

率の改善、販路拡大等の支援を行って参りましたが、人口減少社会を迎え、地域が活力を維持し、成長していくためには「ひとづくり」がより一層の重要な課題となるとことを踏まえ、中小企業を支えている「ひと」を育てる取り組みとして、「人材教育」を充実させたいと考えております。

また、地域を代表する総合経済団体としての役割を再認識した上で、活力溢れる地域社会の実現に向けた取り組みとして、行政・関係諸団体へのインフラ整備、各種政策に関する「要望・提言活動」や街頭犯罪抑止や交通安全を目的とした「安心・安全ネットワーク事業」など地域環境に応じた事業の継続をはじめ、行政・企業・団体等との協力体制を一層強化、広域連携事業の更なる推進を図ることで、会員の皆様、地域の皆様から頼りにされる商工会議所を目指し、「会員事業所の繁栄」、「地域経済の発展」のため、役職員一同、積極的に提案・実行していく所存でございます。

結びに、本年も、会員の皆様、並びに関係各位の一層のご支援とご協力をお願い申し上げますと共に、皆様方の益々のご健勝とご多幸、社業の発展を心より祈念致しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

迎春

会頭 太田宗一郎
副会頭 河井康司
" 鈴木 豊
" 鈴木 文三郎
" 鈴木 英樹
専務理事 河内利夫
常議員 石井利昌
" 市川裕大
" 牛田浩二
" 岡本 巧
" 奥野 雅世
" 加藤 俊二
" 加藤 大志朗
" 金田 芳彦
" 菊地 康英

常議員
" 鬼小柴嶋白杉杉関高玉寺内
" 林田津川浦本橋川野藤
" 俊祥一孝泰世篤淳満愛
" 行浩良久士朗哉之典朗徹昇

常議員 中村育生
" 中村兼仁
" 中村智
" 羽賀象二郎
" 廣田修久
" 正木久雄
" 松盛恭規
" 森下高史
" 森野嘉一
" 安井雅秋
" 山内博彦
" 杉浦芳純
" 近藤一子
" 池田裕幸

監事



新春を迎えて

愛知県知事
大村 秀章

あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様方にとりまして、素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

去年は、愛知総合工科高等学校専攻科の公設民営化や、遠隔型自動運転システムの実証実験、「あいち航空ミュージアム」のオープンなど、全国初となる取組、愛知ならではの取組に果敢にチャレンジし、大きな成果を上げるとともに、アメリカのケンタッキー州やインディアナ州、ベルギーの3地域、インドネシアの経済調整担当大臣府とそれぞれ相互協力等の覚書を締結し、海外とのパイプを一層強固にした1年でした。

また、世界に誇る日本のオリジナルコンテンツであるスタジオジブリ作品をテーマとした「ジブリパーク構想」の具体化に向け、大きな一歩を踏み出した年でもありました。

今年も、様々な取組を積極的に進め、愛知の総合力に更なる厚みを加えていくとともに、未来へと続く取組を、愛知の発展の種として、しっかりと芽吹かせ、着実に育んでいく1年にしてまいります。

そのためには、2027年度のリニア開業に向けた鉄道・道路ネットワークの強化など、中京大都市圏づくりを着実に前進させるとともに、次世代自動車、航空宇

宙、ロボット・AIなどの次世代産業の育成・振興、企業立地の促進、中小企業支援、農林水産業の国際競争力の強化、愛知の魅力の発信と観光振興、来年秋開業を目指す国際展示場の整備などに取り組み、愛知の産業競争力を一層強化してまいります。

また、ジブリパークについては、愛・地球博記念公園での2020年代初頭の開業を目指し、夢とファンタジーあふれるジブリの世界を再現したオンリーワンの施設を創り上げていけるよう、しっかりと取組を進めてまいります。

そして、こうした取組以外にも、認知症にやさしいまちづくりを目指す「オレンジタウン構想」や子どもの貧困対策の具体的な取組の推進、スポーツ・文化芸術の振興、教育・人づくり、地震津波対策や交通安全対策、「環境首都あいち」の取組、東三河地域の振興などに力を注ぎ、「日本一住みやすい愛知」づくりを進めてまいります。

今年も、「日本一元気な愛知」「すべての人が輝く愛知」の実現を目指し、県民の皆様、笑顔で元気にお過ごしいただけるよう全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成30年元旦



年頭あいさつ

刈谷市長

竹中良則

新年、明けましておめでとうございます。

刈谷商工会議所会員の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、刈谷市の商工行政の推進にご理解とご協力を賜りましたことを厚くお礼申し上げます。

さて、政府の発表によりますと、昨今の日本経済は緩やかな回復基調にあるとされており、今後の見通しにつきましても、企業収益や雇用情勢の改善を背景に、回復が続くものと期待されております。

一方で、国内においては地震や台風などの自然災害、海外においては緊張の続く朝鮮半島情勢など、景気の変動に大きな影響を及ぼすリスクは未だ多く、予断を許さない状況にあるものと思います。

また、働き方改革や急激なグローバル化が進み、企業を取り巻く環境が日々目まぐるしく変化していく中で、産業構造そのものに大きな変革が起きる可能性もあると推察されます。

本市は昨年4月1日に「刈谷市中小企

業振興基本条例」を施行し、地域産業の基盤となる中小企業の振興に関する基本方針を明確なものとしたしました。この条例における基本理念のもと、本年も設備投資や融資に係る補助、人材確保や販路拡大への支援、中小企業コンシェルジュの企業訪問による経営課題の相談対応及びニーズ把握など、事業者の皆様が情勢変化に柔軟に対応し、経営の安定を図るうえで、後押しとなる施策を実施してまいります。

また、本市における工業系新市街地の展望をまとめた「刈谷市企業立地推進ビジョン」を基に、工業用地確保や企業誘致について積極的に推進し、地域産業の活性化を図ってまいります。

これからも『人が輝く 安心快適な産業文化都市』の実現を目指し、各種施策に取り組んでまいりますので、引き続き市政へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、刈谷商工会議所の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。



年頭あいさつ

日本商工会議所 会頭 三村 明夫

明けましておめでとうございます。

平成30年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

日本商工会議所会頭として5回目の新年を迎えました。各地商工会議所の皆様におかれましては、日頃から当所事業に一方ならぬご支援・ご協力を賜り、年頭にあたり厚くお礼申し上げます。

さて、西暦で下一桁が7の年は、過去に金融に関わる大きな危機が訪れたこともありましたが、昨年の世界経済は、米国経済が堅調に推移し、欧州も緩やかに回復、中国では高成長から安定成長へと軟着陸に向かっており、全体的に当初の予想を上回る安定した動きとなりました。わが国経済も、潜在成長率が回復したとはいえまだ1%程度の実力の割には健闘しました。しかし持続的な成長に向けて構造改革の推進とサプライサイド政策の実行がますます重要になっております。

一方で、企業を取り巻く環境は、TPP11の大筋合意や世界の貿易量の急速な回復など明るい話題があるものの、北朝鮮問題、米国の保護主義的な政策、BREXITの動きなど、先行きの不透明感も大きくなっております。日本国内では、人手不足の顕在化が、賃金の上昇にも影響を及ぼし、また、多くの中小企業における経営者の高齢化、地方経済の疲弊など、経営者の悩みは尽きなかったのではないのでしょうか。

このように不確実なことが多く、変化のスピードが速い時代の中では、民間企業の経営者の役割がますます重要となっており、各々の経営者が「企業は何のために、誰のためにあるのか」を考え、その中で具体的にどう行動するべきかが問われています。今年には明治維新から150年、また、東京、大阪、神戸の三つの商工会議所が設立140周年を迎える年でもあり、自らの企業経営のあり方を振り返る好機でありましょう。

日本の資本主義と民間企業の発展に多大な貢献を果たした渋沢栄一翁は、「論語と算盤」を著し、「道徳経済合一説」という理念の中で倫理と利益の両立を掲げております。その理念は商工会議所の精神的な支柱として、現代に受け継がれております。経営者の皆様には、是非とも渋沢翁の理念を自らの経営にどう活かすのか、改めて考えていただきたいと思っております。

さて、大きな時代の変化の中で、平成30年を迎えるにあたり、われわれ商工会議所が取り組むべき課題は山積しておりますが、私といたしましては、「中小企業の課題解決が日本経済の成長に直結するものである」との信念のもと、以下のような課題に重点をおいて取り組んでいきたいと考えております。

1点目は、「人手不足の克服」です。深刻化する人手不足は、特に中小企業で顕著であり、およそ6割の企業が人手不足を訴え、この先もますます深刻化することが確実です。わが国における人手不足解消のためには、女性、高齢者、外国人などの多様な人材の活用とともに、ICTなどを活用した生産性の向上が不可欠です。商工会議所としては、会員企業への支援に必要な施策を政府の各種会議などで要請していくとともに、支援事業の実施に取り組んでいきます。また外国人材のさらなる活用についても、時代に応じた抜本的な見直しを訴えていく所存です。

2点目は、「事業承継」への取り組みです。昨年は、事業承継税制の抜本拡充を求める「推進大会」を開催するなど、全国の商工会議所の総力を挙げて、政府・与党へ働きかけた結果、平成30年度税制改正において、商工会議所の意見が多く盛り込まれた形で、事業承継税制の抜本拡充が実現しました。改めて税制改正の実現にご協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。中小企業の事業承継は、単なる相続の問題ではなく、世代交代による中小企業の活性化、生産性向上、地方創生など、わが国経済の成長に関わる大変重要な課題であります。今後5年間で団塊世代の経営者30万人が70歳に到達する「大企業承継時代」を迎える中で、商工会議所として、事業承継税制をはじめ、国の施策をフル活用し、わが国経済を支える中小企業の円滑な事業承継を後押ししていく必要がありますので、引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

3点目は、「地方創生」への取り組みです。第一次産業の活性化、およびインバウンドのみならず国内観光を含めた観光振興による地域・地方の活性化に引き続き取り組みます。さらに、2020年オリンピック・パラリンピックは、わが国の魅力を世界にアピールする絶好の機会であり、招致から続けてきた大会成功に向けての取り組みは、商工会議所の使命の一つと捉えております。加えて、大阪・関西における2025年国際博覧会の誘致も強力に進めていくことが重要であります。

平成30年は、上述の課題を解決・克服していくための1年にしたいと考えております。「未来を拓く商工会議所」として、日本商工会議所では、全国515商工会議所、青年部、女性会などとの連携をさらに強化し、企業、地域、ひいては日本経済の持続成長の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

以上

平成29年度優良従業員表彰式を開催

— 優良従業員93名を表彰 —

12月11日(月)午後4時30分から、平成29年度優良従業員表彰式が、当所2階大ホールにて盛大に挙行されました。来賓に竹中良則市長をお迎えし、会員企業42社から推薦された93名（製造業受賞者：29社から70名、商業・サービス業受賞者：13社から23名）が表彰され、製造業受賞者を代表してトヨタ紡織株式会社渡邊浩之氏、商業・サービス業受賞者を代表して、中部電力株式会社刈谷営業所稲葉隆政氏に、太田宗一郎会頭から表彰状と記念品が贈られました。



表彰者名簿

【製造業部門】 (29社から70名)

アイシン精機株式会社

板倉 恭子・山田 秀和
松崎 功・藤原 章洋

愛知製鋼株式会社 刈谷工場

川内 啓二・宮上 勝孝
平野 隆志

アスカ株式会社

藤田 圭祐・加藤 敦士
馬場 登・石黒 孝雄

株式会社伊藤工務店 刈谷支店

井上 幹康

稲垣鉄工株式会社

加藤 悦志

株式会社小垣江鉄工所

鈴木 博巳・土屋 佳大
山田 敏之

奥野工業株式会社

増田 清士

角文株式会社

榊原 崇之・角田 貴哉
五十畑 巧

株式会社コーリツ

青木 宏文・瀬瀬 英之
柴田 純一

小林クリエイト株式会社

樺山 茂伸・瀬瀬 義幸
小林美奈子・古田 浩之

株式会社近藤組

都築 孝重・都築 浩二
山北 寛司

栄熱処理工業株式会社

神谷 浩徳

株式会社三陽製作所

荒川 義和・榊原 堅納

株式会社ジーエスエレクトック

花岡 ちずる

株式会社ジェイテクト 刈谷工場

小林 剛志・三浦 健次
森田 稔・倉内 隆誌